

GXflow 標準クライアントの統合とカスタマイズ

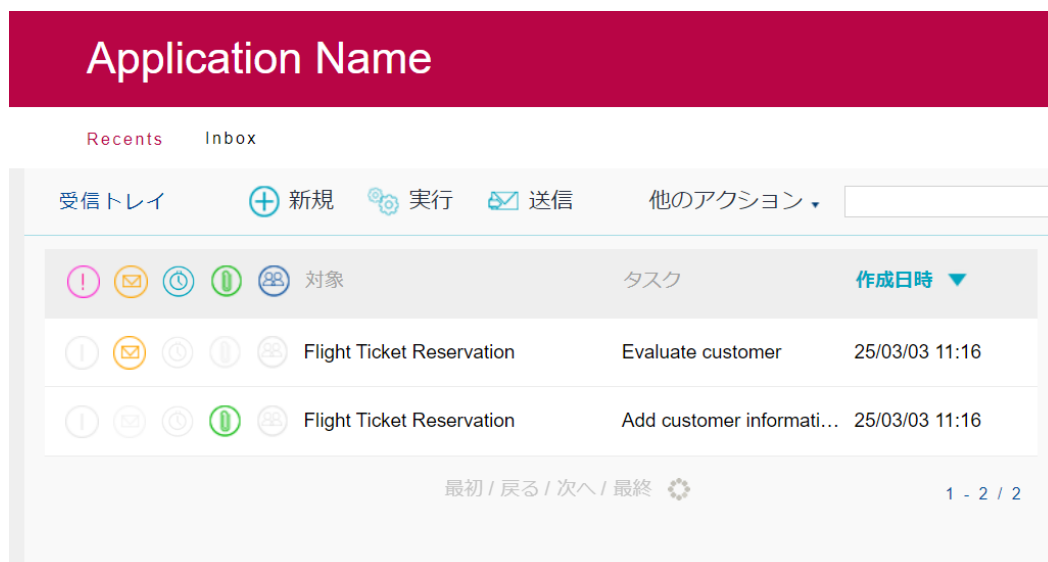
GXflow 標準クライアントは、ユーザーが GXflow の受信トレイ、送信トレイ、マイプロセス、マイパフォーマンス、および「コンポーネント」と呼ばれるその他のアプリケーションにアクセスできるようにするアプリケーションです。

これらのコンポーネントを使用すると、ユーザーはワークフロー エンジンと対話して BPD タスクを作成、実行、および/または送信できます。ただし、別の生成されたアプリケーションからこれらのコンポーネントにアクセスする必要がある場合や、カスタム クライアントが必要になる場合があります。

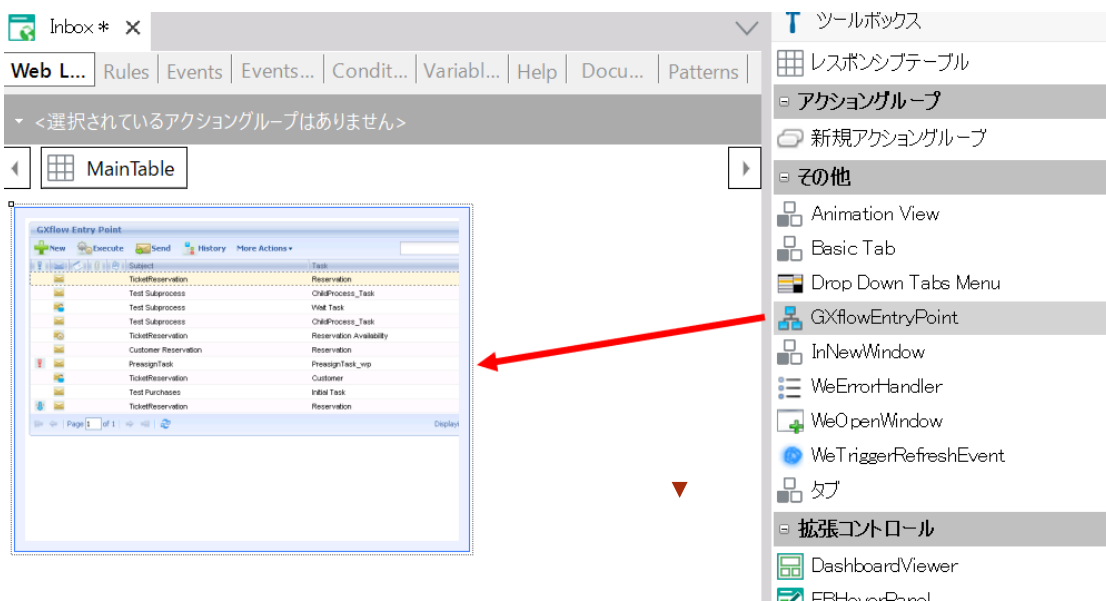
GXflow コンポーネントを GeneXus アプリケーションに統合するには、GXflow エントリポイントを使用する必要があります。これは、GeneXus とともに配布されるユーザー コントロールで、GeneXus インストールフォルダの「/Packages/Gxpm/Extra/GXflowEntryPoint」配下にあります。

これにより、生成された他のアプリケーション内に GXflow コンポーネント（受信トレイ、送信トレイ、履歴など）を埋め込むことができます。

他の GeneXus ユーザーコントロールと同様の方法でインストール出来ます。



コントロールを使用するには、WebPanel を作成し、ツールボックスからコントロールをそのフォームにドラッグします。



次に、次のプロパティを設定します：

- Entry Point (Inbox, Outbox, History, Tasks, etc.)
- User
- Password

最後にアプリケーションを実行します。

このコントロールの詳細については、Wiki をご覧ください。

<http://wiki.genexus.jp/hwikibypageid.aspx?10721>

これは、「GXflow API」を使用し、GXflow クライアントを実装するオブジェクト（xpz）のセットです。

この xpz は公開されています。つまり、ユーザーはこれを統合し、クライアントの外観と動作の両方に関して変更を加えることができます。

xpz は GeneXus のインストール パス内にあります。インポートする前に、ビジネス プロセス ダイアグラムを作成し、モデルにワークフロー データタイプが含まれていることを確認することが重要です。そうしないと、コンパイル時にエラーが発生します。

「WorkflowClient」はクライアントを一元管理する WebPanel であり、実行時には次のようになります：

.xpz ファイルは次の場所にあります：「<GeneXus ディレクトリ>%Packages%Gxpm%Extra%CustomClient.xpz」

GXflow カスタムクライアントの詳細については、次の Wiki リンクをご覧ください：

<http://wiki.genexus.jp/hwikibypageid.aspx?11364>